妙高山霊光寺

医王山薬王寺

医王山 薬王寺 真言宗 旧姉崎町 不入斗（いりやまず）

○開基不詳 本尊 大日如来像を安置している。
本堂は江戸時代失火により全焼し、住職はその罪により八丈島に流罪になり島で没した。
八丈島に現在も墓碑があると伝えられている。
天保 12 年（1842 年）本堂は再建され、その後、昭和 46 年現在の本堂に建替えられた。

○薬師堂 本堂より少し高い西脇に建てられ、木造薬師如来像が安置されている。
本像は昭和 45 年市原市指定文化財になった。像高 71cm 寄木造り均整のとれた優しさ等藤原佛（約 1000 年）の特徴が観られる。薬師像は江戸時代の火災は免れたが像の傷がひどく、文化財指定を機に佛師関保寿先生によって完全に修復に至り、同時に理想的な収蔵庫（薬師像）を再建された。
㊟付録「不入斗薬王寺の栞」を参照ねがいます。
㊟薬師堂は秘佛として年一回 4 月 8 日のご開帳の日以外は拝観出来ません。

㊟不入斗（いりやまず） 税を国や豪商に納めなくてよい土地（租税免除地）姉崎神社の神田と思われる。

不入斗地区の氏神、小鷹神社は姉崎神社の別院。

○薬師堂内に市原市指定文化財（寛政元年鈴木俊直奉納の算額）が納められている。

医王山薬王寺本堂

木造薬師如来来座像

薬師堂

薬王寺参道入り口石佛群

○石幢型一石六地蔵（県内最古）
高さ 1.44m 寛永 20 年 8 月 16 日（1643 年）
市原市指定文化財
㊟六地蔵は地獄、修羅、人間、餓鬼、天、畜生の六道すべてに分身衆生を救う。身近な佛様として、一般庶民から強く信仰された。

薬王寺参道石仏郡

○馬乗馬頭観音　天保 9 年(1838 年)

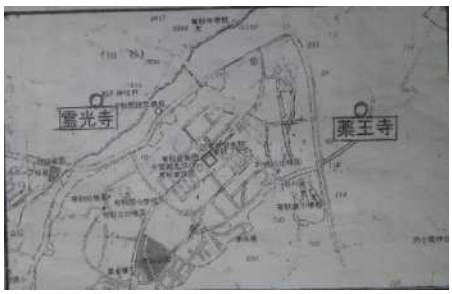
㊟観音様は皆慈悲にあふれた表情をしているが、七観音の内、馬頭観音だけ三面もしくは四面とも、仁王様のように怒った顔をしています。怒りによって人々の目を覚まし正しい道に導く。馬の守り神　旅の安全を守る神。

○庚申塔　文化 8 年(1811 年)

㊟庚申信仰　庚申の夜、眠っている間に体の中に三匹の虫が抜け出し、天帝のもとにのぼって命を取ると言い伝えられ、信者はその夜は身を謹み夜を明かすと言う行事。(会食、談笑の楽しみあり)

○如意輪観音

寛文 6 年(1666 年)七観音の一つ



薬王寺算額　市原市指定文化財

鈴木俊直と算額　江戸時代の数学者たち

江戸時代、流通や経済の発展に伴って、読み書きなどの実用的な知識が必要とされ、町民や農民の間にも、学問が普及し始めました。

数学はそろばんのように日常の計算に役立つ実用的な知識です。しかし損得勘定を扱う学問として教えない寺子屋もありました。

その一方で、関孝和(せきたかかず)などの算学者(さんがくしゃ)(和算家(わさんか))により学問としての研究が進み、問題を解くこと自体を楽しむ流行が生まれていきます。

算学者にも流派があり、剣術や俳諧(はいかい)のような師弟関係や同好家の交流がありました。また、研究しながら諸国を旅した遊歴算家(ゆうれきさんか)は、教師役の不足した地方では識者(しきしゃ)として敬われました。

市内の算学者では、寛政(かんせい)元年(1789)に不入斗の薬王寺へ算額を奉納した、鈴木丈介俊直が

います。

算額とは、算学者が解いた問題を額にかき、神社仏閣に奉納したものです。難問が解けたことを神仏に感謝するほか、問題を広めたり、流派を宣伝する意味もありました。

俊直の解いた問題は、直角三角形に内法する円と半円の直径を求めるもので、県内で最古、市内に現存する唯一の算額です。当時の文化的水準を示す資料として貴重であり、市の有形民俗文化財として指定を受けています。　　、＜ふるさと文化課＞

杉田清校長 有秋小学校初代校長

○明治 6 年創立の深城小学校と片又木小学校が明治 20 年 4 月に合併し、薬王寺を仮校舎として創立開校、初代校長に杉田清氏が就任した。（教師 4 名、生徒 131 名）

○杉田校長は子供達が立派に育ってほしいと願って、和歌「稚苗を教えの庭に培いて秋の実りの有るぞたのしき」と詠った。
この歌詞から有と秋の二文字をとり学校名を有秋小学校と命名し又、有秋台の地名の由来ともなった。

○深城小学校時代から 30 年間、有秋地区の教育に、金属貢献された杉田校長は明治 37 年 4 月新校舎移転と時を同じくして退任された。退任された後も、自宅で私立自習学舎を開き、自ら舎長となり多くの門下生を送り出した。
杉田先生の当時からの住居（姉崎砂子杉田家）庭先に先生の功徳を称えて門下生によって「頌徳碑」が建てられている。
㊟杉田家は代々姉崎鶴牧藩の重臣として、明治 4 年廃藩置県迄仕えてきた士族の家柄である。

杉田清先生 頌徳碑

薬王寺

付録

不入斗薬王寺の栞

医王山薬王寺は新義真言宗で、総本山は紀州根来寺であります。

当寺の本尊は大日如来にて脇侍に不動明王が侍しております。右に弘法大師、左に宗祖興教大師（覚ばん上人）の御像が安置されております。

本堂は江戸時代に失火の為全焼し、住職はその罪を問われて八丈島に流罪となった。没して現在八丈島に墓碑があると伝えられます。その後天保 12 年（1842 年）間口八間二尺、奥行五間半の本堂を建てたが、維持管理の都合上、昭和 46 年に現在の本堂を建立するに至りました。本堂より少し高い西の脇に薬師堂（収蔵庫）があります。木造寄木造りの薬師如来坐像が安置されております。像高 71 センチ輪光光背をひかえ脇侍には日光菩薩、月光菩薩が置かれております。静かなお顔と直線の額の生えぎわや均整のとれたる優しさ、衣文などにもよく藤原仏の特色があります。古来秘仏として衆生の信仰を集め特に眼病によく効くとのことで、今でも参拝者や拝観者が後を絶ちません。

本像は、もと薬王寺より東方約 1 キロはなれた、当区大髙の進藤氏の宅地のすぐ上の山中に安置されていたものを、いつの頃かこの地に遷されたものといわれます。お堂は最初三間四面の宝形造りで、三方に廊をめぐらしてありましたが、老朽ひどく漏水で本尊にも及ぶではないかと懸念されておりました。その時本像は昭和 43 年 4 月 25 日に市原市指定文化財となったのであります。その頃像の傷みはひどくなっていたので、修理する運びとなり、東京都国立市の仏師関保寿先生によって昭和 48 年 10 月完成して見事慈幸慈光に輝いております。

その間に収蔵庫建設の議が起り檀信徒は勿論有縁の方々からも多額の浄財を戴き、又市当局から格別なる御援助を賜りました。現在では保存防災上からも理想的なる収蔵庫の完成を見るに至りました。本堂修復の際、像の背部に墨書があったが、判読することが出来なかった。台座の内部に次の墨書き銘がありました。

延宝六年八月廿三日（1678 年）
仙隠道八雲立　出雲国嶋根群松江之城下之住や
中而作者　本化大乗沙門釋達性院　日海　花押

この日海によって本像の修補が行われたり、そして大髙からの遷祀や台座、厨子など新たに造られたのではないかと推測の念を深くするのであります。

さて前述の進藤氏と薬師仏の関係は詳かではないが、当地では「北の方から武士が背負ってきた」とだけ言い伝えられております。

或る説によると、佐々木萬蔵照長の次男秀長（967 年）が海保に土着したのが始まりであるといわれ、不入斗大髙の進藤氏は海保切生の進藤氏の支流といわれる。切生の進藤氏は旧姓佐々木氏で、海保の名門であった。

海保には海保頭三位中納言盛直の居城があった。源頼信と合戦し、頼信の勝利となった。盛直は落城して遂に腹を切ったと云う。没落後其処に在った薬師仏を佐々木氏が引取り、祭祀していた

ものを、不入斗進藤氏に移されたものと言伝えがあります。この薬師如来坐像は藤原時代（約 1000 年）のものといわれます。菅原道真公の五代目の子孫菅原孝標は国府の役人として上総の国に着任した。当時十歳の娘は実母と別れて父と共に遠い異郷で京への憧れと文章上達を祈るやるせなき身を薬師如来にすがった。以来娘は一心に薬師如来にお祈りをこめた。文才を生かした娘は文学の道に精進して後世に残る有名な「更級日記」が成ったと言います。（1060 年） 藤原孝標が上総から帰任し、後に常陸介に任ぜられることになった。（1032 年） 又海保城を攻めた源頼信はその後美濃守となり八十一才没（1048 年） 前記の海保城に在った薬師仏が、年代的に更級日記の薬師仏とが非常につながりが深い様に思われるのであります。

市内最古の地蔵菩薩

薬王寺の入り口には数々の石仏が建ち並んでおります。その中に一段と目に付く「一石六地蔵（一米四四ｾﾝﾁ）」が建立されております。

この石幢は寶永二十年に当区進道清左衛門他二名によって造立されたものです。銘あるものでは県内最古のものであります。

平安中期以降地蔵信仰はとくに広まり、菩薩として「六道能化」の目的であらわれたもので、地獄、餓鬼、畜生、阿修羅、人間、天上の六つの苦しみから安楽の世界に導くといわれます。村人は折々の草花や香を手向けて、今もなを忘れることなく親しみ信仰されております。

地蔵菩薩真言　おんかかかびさんまえいそわか

医王山薬王寺不入斗六二番地

電話 〇四三六-六六-四三五一

妙高山 <u>霊光寺</u> 真言宗 旧姉崎椎津山谷

○寛治年間」(1087 年～1093 年)不動尊を祀り不動院と称していた。
元禄 5 年(1692 年)江戸湯島に、幕府の援助により建立された真言宗霊雲寺の末寺として一門に加えられ、不動院から霊光寺に改称した。
当時霊光寺は、江戸幕府から手厚い庇護を受け、広大な田畑、山林、免祖地を与えられ、その合計は、昭和 22 年農地解放時には 36 町歩に達していた。
㊟同時期、飯香岡八幡宮が所有していた田畑、山林は 25 町歩であった。

○元禄から宝永にかけて幕府老中柳沢吉保を始め、江戸諸藩主杉本和泉守、黒田豊前守(久留里藩主)等から浄財を仰ぎ、本堂を再建し真言宗の学問所として仏法を広め、多くの信者を集めて隆昌した。今も霊光寺は、市原のお不動様として広く地元で親しまれている。

○<u>宝篋印塔</u> 従三位宰相(京都御所警護長官)八代将軍吉宗公次男徳川右衛門督が愛娘貞姫君の寿福を祈って建立された。このように<u>霊光寺は江戸幕府</u>と大変縁の深い寺であった。

宝篋印塔 徳川右衛門

葵ご紋

鐘楼堂

○戦後昭和 22 年農地改放により、山林 12 町歩残ったが寺の維持修理として消えた。

○<u>新四国八十八箇所霊場巡り</u>
明治 36 年(1903 年)14 世智竜和尚が本堂脇の小高い木立の中に四国八十八箇所霊場巡りに倣い、八十八箇所の石碑に弘法大師の姿を刻み、新四国霊場巡りとして建立整備した。

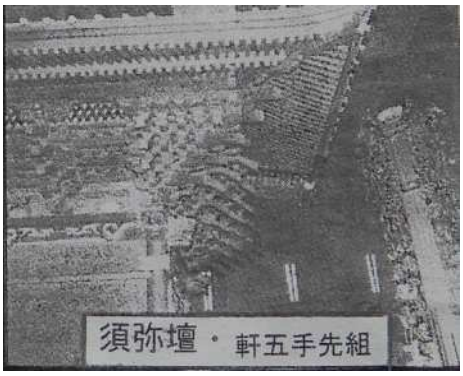
新四国八十八箇所霊場巡り

○<u>寺は昭和末迄一軒の檀家も持たず</u>杉本和泉守、黒田豊前守(久留里藩主)の祈願寺としてのみで経営維持されてきた事で有名である。

○現在の本堂は旧本堂焼失により宝暦 7 年 1 月（1757 年）再建された堂。

○本堂軒組（建築様式）

軒組は和洋三手先組尾垂木付で、市原市内で本格的本堂ではこの様式は霊光寺のみである。
本堂内の須弥壇の軒組は 5 手先組の豪華な細工で出来ている。
㊟小さなお堂では、平藏の国指定文化財の西本願寺阿弥堂が 3 手先組で保存されている。



○昭和 53 年第 19 世桜井蜜巖和尚として就任、傷の激しい本堂を積極的に修理、基礎土台の強化、屋根の吹き替え、向拝屋根を唐破風に大きくして優美に改変した。又、平成 16 年には庫裏の新築も行った。